

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

伝統工芸・江戸小紋を世界へ、未来へ

廣瀬雄一 東京都／江戸小紋染め職人

「匠」のモノづくりを応援 レクサスが日本全国の

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、隈研吾氏(建築家)、東京大学教授、グエナエル・ニコラ氏(デザイナー)、清川あさみ氏(アーティスト)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト)、アート・プロデューサー、下川一哉氏(意匠研究所)らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本場に欲しいと感じるプロダクトか?」「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバ



エリア・コンサルティングにて

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出す。そして、レクサスのブランド思想の1つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。東



1月18日、プレゼンテーションにて
京都選出の匠、江戸小紋染め職人・廣瀬雄一さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

伝統は時代の波を越えて



完成プロダクト「江戸小紋の碇柄クッションと蝶タイ」

洋装とインテリア 異なる二つの可能性

江戸小紋は、文字通り手にとって見なければそれと気付かないほど小さな柄を、「型染め」の技法で染め上げる伝統工芸。今回のプロジェクトで廣瀬さんが選んだのは、「碇」の柄だった。

「染物で碇柄というのはあまりないと思いますが、海に囲まれて暮らす日本人にとっては縁の深いモチーフですし、『安定』や『人と人をつなぎ留める』といった願いも込めて、これをつくってみたいと思いました」

蝶ネクタイとクッションを製作することに決め、たきっかには、サポートメンバーの下川氏のアドバイスだ。

「一方は洋装で、一方はインテリア。その両方にチャレンジすることで、江戸小紋の可能性が広がると思いませんか?」

約一年という決して長くはない制作期間のなか、何度かデザインを変えながら試行錯誤し、最終的に大小二つの碇を組み合わせた図柄に落ち着いた。完成したプロダクトは、廣瀬さん自身もこれまで手掛けたことがないユニークなものになったと感じている。



江戸の伝統を守る廣瀬さん

でも貢献することが今後の目標だ。昨年はパリでも個展を開いた若き匠は、このプロジェクトを機にますます活躍の場を広げようとしている。

かっこいいことは かっこよくない

10歳からウィンドサーフィンを始めた廣瀬さんは、かつて五輪の強化選手に選ばれたこともある。大正7年から続く「廣瀬染工場」の4代目。この仕事を継ぐと強制されたことは一度もないが、父や祖父と同じ道を歩む自分の姿は、幼いころから漠然と思いついてきた。



バイヤーたちにプロダクトを紹介

現在38歳。職人としてのキャリアは20年近く、普通の仕事ならそろそろベテランと呼ばれてもいい年代だ。「この世界には生涯現役の大ベテランの方も多いため、自分が何かをできるようなったという気はまだ全然ないですね。日々、挑戦と気付きと反省の連続です」

経験を重ねて技の熟成に努めながら、専門とは違う分野の刺激も吸収し、人間としても向上していききたい。そう話す廣瀬さんにとって、今回のプロジェクトは「モノづく



昔ながらの手仕事の道具が並ぶ工房

「今の人は、かっこいいかどうかで感覚的に判断しがちですが、僕はただかっこいいだけなら、そんなにかっこよくはない気がするんです。普段使うものに込められたつくり手の思いや、デザイナーの意味までを一緒に楽しめる人は、とても粹ですよ」

数十年、数百年後にも江戸小紋が生き続けられるよう、さまざまなアイデアに挑戦すること。そしてその時代の人たちにも、平成の世で活躍した廣瀬の4代目は腕がよかつたね、と言われるよう技を磨くこと。そのためには、どんな波でも越えていくつもりだ。



廣瀬さんの作業風景

「スーパーバイザーの小山薫堂さんに、『それを誰が使うのか』を考え続けることが大切だと言われたのが印象に残っています。独りよがりには自分がつくりたいからつくるのではなく、人や場面に寄り添う製品を、手仕事のぬくもりを大切にしながら生み出していきたい。日本が『モノづくりの国』であるのは、相手の気持ちを思いやるのが日本人は得意だからかもしれないですね」



廣瀬 雄一
東京都／江戸小紋染め職人

1978年新宿区に生まれる。2000年ウィンドサーフィン、2001年国際オリンピック強化選手。2001年に淑徳大学国際コミュニケーション学部を卒業。2002年に有限会社廣瀬染工場入社。2014年にフランス、リヨン「MAISON DES CANUTS」にて日本文化江戸小紋染めの講演と実演。2014年に第54回東日本伝統工芸展、第61回日本伝統工芸展で入選。2015年第49回日本伝統工芸織展入選。

